

科目名	建築設計製図Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	隈 道章
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて意匠設計を担当、専門学校にて常勤講師として勤務
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	本授業ではまず鉄筋コンクリート造の構造を理解し、一般図の描き方を習得する。RC造「都市型店舗併用住宅」の住宅部分について設計演習をする。後半は「RC造低層集合住宅」の課題について、環境に配慮し、多様な世代が交流可能な集合住宅を設計演習する。						
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				製図の基本に即してRC造の配置、平面、断面、立面図を作図することができる。	
	○					設計条件を理解し、参考資料を収集して、エスキスの検討・決定をすることができる。	
		○				エスキスに基づき、整合性のある一般図を作図することができる。	
	○					設計趣旨を発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 住まいの建築設計製図、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1・2	RC造「都市型店舗併用住宅」・配置図兼1階平面図の作図					
	3・4	RC造「都市型店舗併用住宅」・2階平面図の作図					
	5・6	RC造「都市型店舗併用住宅」・住宅部分のエスキス、決定					次回までにエスキス決定させる
	7・8	RC造「都市型店舗併用住宅」・3階平面図の作図					
	9・10	RC造「都市型店舗併用住宅」・屋上階平面図の作図					
	11・12	RC造「都市型店舗併用住宅」・断面図の作図					
	13・14	RC造「都市型店舗併用住宅」・立面図の作図、図面提出					
	15・16	RC造「低層集合住宅」設計・設計条件の把握、参考資料収集					
	17・18	RC造「低層集合住宅」設計・エスキス検討、決定					次回までにエスキス決定させる
	19・20	RC造「低層集合住宅」設計・配置図兼1階平面図の作図					
	21・22	RC造「低層集合住宅」設計・2階平面図の作図					
	23・24	RC造「低層集合住宅」設計・3階平面図の作図					
	25・26	RC造「低層集合住宅」設計・南北方向断面図の作図					
	27・28	RC造「低層集合住宅」設計・立面図(南面・北面)の作図					
29・30	RC造「低層集合住宅」設計・設計趣旨発表、図面提出						
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		50%
	発表・作品	○	○		○		50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築計画Ⅱ										
科目名(英)	Architectural planning and designⅡ										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		河嶋 正樹		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年										
授業概要	・幼稚園、保育園、小学校、中学校を計画する上での基本的な知識の修得と、代表的な事例の紹介。 ・外部空間の計画上の手法を学ぶ。										
授業形態	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				幼稚園、保育園を計画する上で留意すべき事柄を説明出来る					
		○				小学校、中学校を計画する上で留意すべき事柄を説明出来る					
		○				外部空間(都市の通過空間、広場、住宅地の外部空間)の計画手法を説明出来る					
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)市ヶ谷出版社、コンパクト版 建築史(日本・西洋)彰国社										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画1									
	2	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	3－1幼稚園(保育所) 各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	レポート課題①					レポートを提出期限までに提出すること				
	5	3－2小学校・中学校 小学校・中学校の変遷					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	3－2小学校・中学校 学校の計画,校舎の計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	3－2小学校・中学校 新しい教育形態への対応					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	レポート課題②					レポートを提出期限までに提出すること				
	9	7－1外部空間の把握 建築物と外部空間、外部空間の認識方法					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	7－2外部空間の把握 外部空間のスケール					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11	レポート課題③					レポートを提出期限までに提出すること				
	12	7－2外部空間の計画手法 都市の通過空間・都市の広場					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	7－2外部空間の計画手法 住宅地の外部空間					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	後期授業総括(1～13回)、レポート課題発表①②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
15	レポート課題③発表					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	○		○							80%
	小テスト	○		○							20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない										

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural Planning Ⅲ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	河嶋 正樹
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	・劇場、集会施設、老人ホーム、体育館等を計画する上での考慮すべき事項を学ぶ。						
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				事務所ビルを計画する上での構成・要件・形式の説明が出来る	
	○	○				劇場を計画する上で基本的事項(客席・舞台の形式・構成要素・配置計画)の説明が出来る	
	○	○				百貨店・スーパーマーケットの基本的事項(種類・配置計画・店舗の構成)について説明出来る	
	○	○				宿泊施設を計画する上での基本的事項(部門・構成要素・動線計画)が説明出来る	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)市ヶ谷出版社、コンパクト版 建築史(日本・西洋)彰国社						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	ガイダンス6-1規模計画と経済効率					予習・復習することを心がける。
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	4	6-2事務所ビル 各室計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施する ので、復習しておくこと。
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施する ので、復習しておくこと。
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件					前回までの授業内容に係る確認テストを実施する ので、復習しておくこと。
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。
	15	総括 I					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習し ておくこと
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	建築計画Ⅳ						
科目名(英)	Architectural planning and design Ⅳ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	内藤 芳典
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建設会社にて 建築施工に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	日本および西洋の建築の歴史を俯瞰し、様々な建築様式を学ぶことで、 建築意匠と構造への理解を深める。						
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築史上の代表的な建築の特徴を説明できる	
	○	○				世界の代表的な建築家と代表作品の特徴を説明できる	
	○	○				それぞれの時代背景と建築の特徴について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	コンパクト版 建築史(日本・西洋)(彰国社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	日本建築史(1) 古代の建築					
	2	日本建築史(1) 古代の建築				教科書の関連するページを読む。	
	3	日本建築史(2) 中世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	4	日本建築史(2) 中世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	5	日本建築史(3) 近世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	6	日本建築史(3) 近世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	7	西洋建築史(1) 古代の建築				教科書の関連するページを読む。	
	8	西洋建築史(1) 古代の建築				教科書の関連するページを読む。	
	9	西洋建築史(2) 中世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	10	西洋建築史(2) 中世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	11	西洋建築史(2) 中世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	12	西洋建築史(2) 中世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	13	西洋建築史(3) 近世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	14	西洋建築史(3) 近世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	15	西洋建築史(4) 近世の建築				教科書の関連するページを読む。	
	16	西洋建築史(4) 近世の建築				教科書の関連するページを読む。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	宿題・レポート	○	○				40%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築環境工学						
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	竹田 真志
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、 建築士に必要な知識と技能を獲得する。						
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築環境工学 最新版(市ヶ谷出版社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築環境工学の役割・太陽位置と日照・日影の関係					
	2	日影曲線・日影時間・日射量・日射調節□				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	3	光環境・測光量・照度計算・明視条件□				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	4	採光・人工照明□				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	5	色彩の表し方・表色法・色彩の効果・色彩計画				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	6	室内空気環境・自然環境				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	7	機械環境の計画				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	8	熱の流れの基礎・熱感流と日射				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	9	建物全体の熱特性				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	10	湿り空気と露点温度・結露				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	11	室内空気汚染物質と許容濃度				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	12	人体周りの熱収支・温熱環境指標				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	13	音の性質・音の単位・レベル・聴感				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	14	騒音評価法・基準・遮音・音響計画				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
	15	授業の振り返り、総まとめ				学習部分の復習と、次回授業の該当部分について テキストで予習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テスト実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築設備											
科目名(英)	Building Facilities											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		田川 裕也			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事			
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年											
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として 必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。											
授業形態	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる						
	○	○				給排水衛生設備の給水・排水方式について用途の違いを説明できる						
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる						
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる						
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる						
テキスト・教材 参考図書	図説 やさしい建築設備(学芸出版社)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	建築設備の概要					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	給排水衛生設備 2・1給排水・衛生設備の定義					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	2・2給水設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	2・3給湯設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	2・4排水・通気設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	2・5ガス設備 2・6衛生器具設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	空気調和設備 3・1空気調和設備の概要					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	3・2空気負荷 3・3空調方式					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9	3・4空調熱源方式 3・5熱搬送設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	10	3・7換気設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11	電気設備 4・1電気設備とは 4・2電源引込					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	4・3幹線・動力設備 4・4照明設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	4・5通信情報設備 4・6エレベーター・エスカレーター設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	5防災設備 6省エネルギー					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	まとめ					本科目における学習内容を復習しておくこと					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テスト実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		○								80%
	小テスト	○		○								20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。											

科目名	建築構造力学Ⅱ						
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	黒木 文雄
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて構造設計を担当、 専門学校にて常勤講師として勤務
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、建築構造力学(応力、トラス、座屈、たわみ、不静定構造など)の考え方を身につけます。						
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				応力を算出することができる。	
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。	
	○	○				トラスの軸力を算出することが出来る。	
	○	○				梁のたわみ、材の座屈が計算できる。	
	○	○				不静定構造物について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	図説 やさしい構造力学(学芸出版社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	持ち出し梁の応力				予習、復習	
	2	片持ち梁の応力				予習、復習	
	3	片持ち梁系ラーメンの応力(1)				予習、復習	
	4	片持ち梁系ラーメンの応力(2)				予習、復習	
	5	単純ラーメンの応力(1)				予習、復習	
	6	単純ラーメンの応力(2)				予習、復習	
	7	3ヒンジラーメンの応力				予習、復習	
	8	トラス構造の特徴と静定トラスの解法について				予習、復習	
	9	静定トラス 切断法(1)				予習、復習	
	10	静定トラス 切断法(2)				予習、復習	
	11	静定トラス 節点法・算式				予習、復習	
	12	静定トラス 節点法・図式				予習、復習	
	13	梁のたわみ				予習、復習	
	14	座屈				予習、復習	
	15	不静定構造について				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テスト実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	建築一般構造Ⅱ													
科目名(英)	Introduction of Building ConstructionⅡ													
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		黒木 文雄					
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建築設計事務所にて構造設計を担当、 専門学校にて常勤講師として勤務					
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年													
授業概要	RC構造に関する一般構造と構造設計を学ぶ													
授業形態	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標								
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。								
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)の特徴について説明することが出来る。								
	○	○				断面算定をすることが出来る。								
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。								
	○	○				トラス構造について説明することが出来る。								
テキスト・教材 参考図書	図説 やさしい建築一般構造(学芸出版社)													
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示					
	1	構造の特徴と構造形式												
	2	鉄筋の形状・寸法・品質・表示について							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	コンクリート(1) コンクリートのあらまし							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	コンクリート(2) コンクリートの調合について							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	コンクリート(3) いろいろなコンクリートの紹介・特性の解説							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	基礎(1) 基礎の構成と分類							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	基礎(2) 基礎の形式と設計上の注意点について							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	主体構造のあらまし 主体構造の構成(柱と梁、床スラブ)							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9	配筋(1) 配筋の基本について							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	10	配筋(2) 床・壁・基礎、鉄筋の折り曲げと継ぎ手							授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11	仕上げ 仕上げ材の選択(外部仕上げ・内部仕上げ)							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	開口部、階段 路面の仕上げ、手すり							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	壁式構造、壁式鉄筋コンクリート構造、壁式プレキャスト鉄筋コンクリート構造							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	プレストレストコンクリート構造 概要と導入方法							教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	まとめ							授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テスト実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。													
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合	
	定期試験		○		◎								80%	
	小テスト		○		○								20%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない													

科目名	建築図学Ⅰ								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	石原達也		
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	デザイン事務所にて 建築パース作成に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年								
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要であり、オーナーの希望を具体化し 絵 として表現する事により、より解りやすく表現する方法である。建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。								
授業形態	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					建築パースの重要性・必要性を説明することが出来る。			
	○					パースの成り立ち(遠近法・図法)を説明出来る。			
		○				図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを作ることが出来る。			
		○				1消点図法・2消点図法を使って内観パースを作る。			
		○				内観パースに着色し、カラーパースとして完成出来る。			
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	建築パースの重要性・必要性					課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	2	内観1消点法・基本・変形							
	3	斜め家具の配置							
	4	ベッドルームの作成							
	5	和室のパース作成							
	6	リビングルームの作成							
	7	外観2消点法・基本							
	8	3階建ビルの外観パースを作成							
	9	2階建ビルのパース							
	10	2階建住宅のパースを作成 1							
	11	2階建住宅のパースを作成 2							
	12	切妻住宅の外観パースを作成 1							
	13	切妻住宅の外観パースを作成 2							
	14	切妻住宅の外観パースを作成 2							
	15	着色1							
	16	着色2							
評価方法	課題作品の提出、作品の完成度・精度にて評価する。								
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	課題の提出		○	◎				50%	
	作品の完成度・精度			○				50%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況に関係なく単位を与えない。								

科目名	建築図学Ⅱ							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	元木 昭平	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	デザイン設計事務所にて、商品の企画・デザインに従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年							
授業概要	建築模型製作の基礎を学ぶ。 【手で作る 模型演習】 模型づくりを通して建築をつくり出すことの楽しさを実感させるとともに、重要な前提知識と基礎技術の中から、これだけは確実に覚えてほしいことに絞り込んでトレーニングを行う。							
授業形態	講義: △		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他			
		○	○			基本的な住宅模型(切妻屋根の住宅)を完成させることができる		
		○	○			建築図面に忠実な住宅模型を制作することができる		
			○			スケジュール通りに制作を進め、完成させることができる		
		○				制作した住宅模型についてプレゼンテーションすることができる		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	道具と材料、スチレンボードの加工、立方体をつくる					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	2	家のカタチをつくる					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	3	立体曲面をつくる					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	4	立体曲面をつくる					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	5	切妻屋根の住宅模型					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	6	建築図面の読み方					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	7	L字形平面の住宅模型①					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	8	L字形平面の住宅模型② プレゼンテーション					作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	9	コートのある住宅模型①					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	10	コートのある住宅模型② プレゼンテーション					作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	11	丸屋根のある住宅模型①					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	12	丸屋根のある住宅模型②					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	13	丸屋根のある住宅模型③ プレゼンテーション					作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	14	テラスとピロティのある住宅模型①					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	15	テラスとピロティのある住宅模型②					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	16	テラスとピロティのある住宅模型③ プレゼンテーション					授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
評価方法	授業の中で課題提出を実施する。未提出作品がある場合はD評価とする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	作品評価		○	○			50%	
	作品提出		○				50%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない							

科目名	BIM演習 I						
科目名(英)	Building Information Modeling I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田邊 聡		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて BIMモデル作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				覚えたコマンドを効果的に活用してモデリングを行うことができる。	
		○		○		モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。	
		○		○		材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。	
		○		○		レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。	
		○		○		自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD Magic Vol. 1 及び Vol. 2 (グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1, 2	BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱」				テキストを見て予習を行うこと	
	3, 4	モデル入力「梁、壁」				前回の復習を行うこと	
	5, 6	モデル入力「ドア、窓、スラブ」				前回の復習を行うこと	
	7, 8	モデル入力「階段、オブジェクト」				前回の復習を行うこと	
	9, 10	モデル入力「2階、3階の作成」				前回の復習を行うこと	
	11, 12	モデル入力「屋上の作成、カーテンウォール」				前回の復習を行うこと	
	13, 14	モデル入力「断面図、立面図」				前回の復習を行うこと	
	15, 16	モデル入力「レンダリング、レイアウト」				前回の復習を行うこと	
	17, 18	課題1:モデル再入力「1階、2階」				前回の復習を行うこと	
	19, 20	課題1:モデル再入力「1階、2階」				前回の復習を行うこと	
	21, 22	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」				前回の復習を行うこと	
	23, 24	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」				前回の復習を行うこと	
	25, 26	環境モデル作成、材質設定				前回の復習を行うこと	
	27, 28	レンダリング設定				前回の復習を行うこと	
	29, 30	プレゼンテーションボード作成「データ提出」				必要提出資料の確認を行うこと	
評価方法	(1)2つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・表現力を評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		◎		○		100%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	CG演習 I						
科目名(英)	Computer Graphic Practice I						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	大坪 智
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	デザイン事務所にてCG、パース作成に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	作品をつくるにあたって、伝わりやすく見やすい資料をデザインできる必要がある Photoshop・Illustratorの基本操作を理解し、業界における重点を学ぶ 各ツールの役割・動作・得られる結果について理解し、必要な場面で適切に使用することができるようになる						
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				Illustratorの機能について説明することができる	
		○				Illustratorによる適切なレイアウト処理ができ、プレゼンテーションを作成することができる	
		○				Photoshopによる画像補正、修正処理ができる	
		○				IllustratorとCAD・PDFの連携を意識した処理ができる	
テキスト・教材 参考図書	プリント資料						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	イラストレータの基本操作: ウィンドウレイアウト、ツール、ショートカットの理解					Illustrator・Photoshopのインストール
	2	イラストレータの基本操作: ウィンドウレイアウト、ツール、ショートカットの理解					
	3	イラストレータの基本操作: 線、面のパス操作、レイヤー操作の理解					
	4	イラストレータの基本操作: 線、面のパス操作、レイヤー操作の理解					
	5	イラストレータの基本操作: ロゴ、名刺作成、文字入力、数値入力、フォント変更、ポイント変更、アウトライン化					
	6	イラストレータの基本操作: ロゴ、名刺作成、文字入力、数値入力、フォント変更、ポイント変更、アウトライン化					
	7	イラストレータの基本操作: ロゴ、名刺作成、装飾、仕上げ					
	8	イラストレータの基本操作: ロゴ、名刺作成、装飾、仕上げ					
	9	フォトショップの基本操作: ウィンドウレイアウト、ツール、ショートカットの理解					
	10	フォトショップの基本操作: ウィンドウレイアウト、ツール、ショートカットの理解					
	11	フォトショップの基本操作: レイヤー構造、レイヤーオプションの理解					
	12	フォトショップの基本操作: レイヤー構造、レイヤーオプションの理解					
	13	フォトショップの基本操作: スマートオブジェクト、レイヤーマスクの理解					
	14	フォトショップの基本操作: スマートオブジェクト、レイヤーマスクの理解					
	15	フォトショップの基本操作: 写真合成 イラストレータデータとの連帯 全体まとめ					
	16	フォトショップの基本操作: 写真合成 イラストレータデータとの連帯 全体まとめ					
評価方法	練習問題を小テストとして評価 3種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品提出	◎	○				100%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	CG演習Ⅱ						
科目名(英)	Computer Graphic PracticeⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	児玉 正樹
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	建築設計に付随するサイン・内装の知識を習得することにより、多様化する建築設計に対応できる力を養う。 また、デザインリテラシーが求められている現在、設計者として設計の考え方・アプローチ、その表現手法・プレゼンテーションをコンペを通して学んでいく。						
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				建築的サインの必要性和掲出場所を理解しプランする事ができる。	
		○				内装を理解し簡単なプランニングができる。	
		○	○			サイン・内装のプランニングを適切に平・立面図で表現することができる。	
		○				設計(コンペ)に対しての基本的な考え方のアプローチ・手法を表現する事ができる。	
		○				設計(コンペ)に関するコンセプト・ねらいを表現でき、プレゼンテーションできる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	建築設計に付随するサイン・内装の理解とデザイン					
	2	建築設計に付随するサイン・内装の理解とデザイン					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	3	建築設計に付随するサイン・内装のプランニング					
	4	建築設計に付随するサイン・内装のプランニング					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	5	建築設計に付随するサイン・内装の平面図の作成					
	6	建築設計に付随するサイン・内装の平面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	7	設計(コンペ)のアプローチ図・考え方の作成					
	8	設計(コンペ)のアプローチ図・考え方の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	9	設計(コンペ)のプレゼンボードの作成					
	10	設計(コンペ)のプレゼンボードの作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	11	建築設計に付随するサイン・内装の立面図の作成					
	12	建築設計に付随するサイン・内装の立面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	13	サイン・内装デザイン作成した図を元にプレゼン資料作成					
	14	サイン・内装デザイン作成した図を元にプレゼン資料作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	15	作成したプレゼン資料元に、プレゼンテーション					
	16	作成したプレゼン資料元に、プレゼンテーション					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
評価方法	(1)課題の提出 (2)プレゼンテーション 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品		○	○			50%
	プレゼンテーション		○	○			50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						